



## セミナープログラム

10月31日(木)

17:30 受付開始

17:55 開会挨拶 セミナー実行委員長

18:00 特別講演 1. 写真資料の保護に向けて

|

九州国立博物館 館長 三輪嘉六

18:45 日本の近代化の流れの中で、写真資料のもつ文化財的意義には多くの課題がある。いま、記録性を正面において考え勝ちであることは止むを得ないにしても、一方では実物資料としての写真の保存・活用のあり方にもっと光を当てていくことの必要性を論じたい。

18:50 特別講演 2. 写真コレクションの予防的保存（日本語通訳付き）

|

フランス国立コレクション保存研究センター所長 ベルトラン・ラヴェドリン

20:20 近年の写真技術のデジタルへの移行は、アナログ写真をこれまで以上に、芸術的また技術的な価値をもつ伝統的文化として位置づけることになった。保存修復方法の提案や適切な保存計画を成功裏に選択するためには、学芸員や科学技術史家、保存修復家の学際的な取り組みが唯一の有効な手段となろう。このような取り組みを中心に写真コレクションの予防的保存について解説する。

11月 1日(金)

9:30 受付開始 (9:30 までは建物内にお入りになれません)

10:00 講演 3. カラー写真のはじまり：オートクロームの誕生（日本語通訳付き）

|

フランス国立コレクション保存研究センター所長 ベルトラン・ラヴェドリン

11:30 最初の実用的なカラー写真であるオートクロームは、リュミエール社により 1907 年に世に出された。この新発明はすぐに人気を博し、その後 30 年以上に渡って数百万枚のプレートが生産された。オートクロームは色素と銀など写真保存を考える上で多彩な要素をもつ材料である。このカラー写真の技術的な発展と、リヨンにおけるリュミエール家の事業を概観して解説する。

11:35 講演 4. フィルム保存のためのケミカル対策

|

～ケミカル除去シートによる酢酸低減法と、館内ケミカル対策の事例紹介～

12:30

日本無機株式会社 商品開発知財部 増田竜司

ビネガーシンドロームの原因物質であるフィルムから放散する酢酸の除去を目的として、ケミカル除去シートを用いたときの濃度低減効果を紹介し、保存方法を提案する。併せて博物館や美術館で用いられているケミカル対策の事例を紹介する。

－ 昼食休憩 (60 分) －

13:30 講演 5. 長期保存用光ディスクの保存性能に関して

|

株式会社アルメディア オ 新規事業部 技術部 宮長貴旨

14:25 光ディスクと記録ドライブの組合せテスト結果から、光ディスクと記録ドライブの組合せの重要性を解説すると共に、2000 年から蓄積している一般市販品ディスクの経時変化具合を、JIS Z6017（電子化文書の長期保存方法）の規格値と対比、その結果をもとに、長期保存用光ディスクの保存性能に関して解説する。

- 14:30 講演6. 超長期保存技術「デジタルロゼッタストーン」  
慶應義塾大学工学部 黒田忠広  
15:25 デジタル情報を1000年以上保存することができる半導体メモリ技術「デジタルロゼッタストーン」を発表したところ、世界的な反響があった。本講演では、その技術を紹介し、将来性について考えを述べ、発表から学んだことについて紹介する。

－ 休憩（15分）－

- 15:40 講演7. 市民ボランティアとの協働作業による被災写真群の整理事業  
十日町市教育委員会 生涯学習課 高橋由美子  
16:35 100年の歴史を持つ写真館が新潟県中越地震で被災し、約4万8千点の写真が市に寄託された。これらを未来に伝え活用できるようにするために、市民ボランティアが個々の写真の内容を読み解き、記録化する作業を始めた。これまでの実践から地域における写真整理の意味と活用のあり方を考える。

- 16:40 講演8. デジタル画像を用いた歴史史料管理体系の再構築  
～東京大学史料編纂所の取り組み～  
17:35 東京大学史料編纂所 古文書古記録部 井上 聡  
東京大学史料編纂所では明治以来、複製による史料収集を進め、独自の管理体系を構築してきた。しかし既存収集史料のデジタル画像化やデジタルカメラを用いた史料採訪の進展により、従来の管理システムは十全に機能し得なくなっている。こうした状況に応じて、史料管理体制のみならず編纂活動まで視野にいれた新たな取組が始まっている。本報告はその取り組みを紹介してみたい。

17:45 閉会挨拶 日本写真学会副会長

- \*各講演時間には質疑・応答の時間を含みます。なお、講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含みますので主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音はご遠慮願います。  
\*閉会后、講演者と参加者の自由な情報交換の場として懇親会（下記参照）を行います。奮ってご参加ください。

---

## 参加申し込みについて

**セミナー参加費**（講演要旨集代を含む）：2日間に渡る開催となりますが、参加費は例年と同額です。

日本写真学会および協賛学協会々員	…………… 6,000 円
非会員	…………… 8,000 円
学 生	…………… 2,000 円

（日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。）

**定 員** 180 名（定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい）

**懇親会** 講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり懇親会を開きます。参加ご希望の方は郵便振替用紙の該当欄にその旨ご記入の上、会費をお送り下さい。

日時：11月1日18時より

場所：恵比寿ガーデンプレイスタワー3F 恵比寿ガーデンカフェ

会費：3,000 円

申込締切 平成 25 年 10 月 15 日 (火)

申込方法 このプログラムに同封されている郵便振替用紙に、必要事項をご記入の上、セミナー参加費をお振り込み下さい。ご入金を確認した後、参加証をお送り致します。また、懇親会に参加ご希望の方は会費も合わせお振り込み下さい。

(郵便局備え付けの振替用紙でもお申し込み頂けます。その際は参加費区分、懇親会参加の有無を通信欄にお書き下さい)

日本写真学会ホームページ <http://www.spstj.org/> から参加申込ができます。トップページの「最新イベント情報」、あるいは左肩「イベント」よりお入り下さい。その場合でも、参加費のお支払は、上記のように事前に郵便振込みでお願い致します。

なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、参加のご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

送り先 〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内  
(一社) 日本写真学会 Tel. 03-3373-0724  
郵便振替口座番号 : 00130-6-72818 Fax. 03-3299-5887

### 日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。  
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

年会費 : 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

一般社団法人 日本写真学会 事務局  
〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5  
東京工芸大学内  
Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887  
URL <http://www.spstj.org>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

一般社団法人 日本写真学会

会 長 : 小林裕幸 副会長 : 小林和久 中野寧

画像保存セミナー実行委員会

委員長 : 山口孝子 (東京都写真美術館)

委 員 : 上田耕一郎 (東京工芸大学)

大西弘幸 (セイコーエプソン)

河野純一 (元コニカミノルタ)

酒井健男 (アルメディア)

清野晶宏 (IMAGICA)

谷 昭佳 (東京大学史料編纂所)

大関勝久 (名古屋大学)

大林賢太郎 (京都造形芸術大学)

小林裕幸 (千葉大学)

杉本和俊 (コダック)

高橋則英 (日本大学)

吉田 成 (東京工芸大学)